



「優しさの架け橋」アンケート報告

ホームヘルパー、デイサービス、etc... みなさん知ってますか?



本年度ひとに優しいまちづくり委員会(藤井寛也委員長)では、介護に対する考え方や三原の福祉サービスの内容、また、現在の楽しみや生きがいについて、三原の高齢者の方々の声を聞かせていただき、これからの「まちづくり」に生かしていこうという思いで、アンケート調査をさせていただきましたので、ここに報告させていただきます。

委員会メンバー一同、アンケート調査のみにとどまらず、色々なお話をうかがう事ができ、人と人のふれあいの大切さを実感し、ご協力いただいた方々に心から感謝いたしております。ありがとうございます。

(社)三原青年会議所は、今年度開設予定の総合福祉健康センターの活用も視野に入れ、今後とも、三原

がひとに優しいまちになるよう活動してまいります。

なお、アンケートにご協力いただいたグループ名は次のとおりです。

- ・中之町下町内会「さくらんぼの会」
- ・中之町中地区「ひまわり会」
- ・沼田東町末広「土筆会」
- ・宮浦西部「ひまわり会」
- ・須波西町「さざなみ」
- ・幸崎町久津「寿会」
- ・須波ハイツ「須波仲よし会」
- ・宮沖三丁目町内会「むつみ会」
- ・小泉町閑屋地区「すみれ会」

ありがとうございました。
アンケート総計 138件



程度、情報を得ている方々という事情もありますが、在宅福祉サービスの名前は、多くの人が知っておられました。

しかし、よく話を聞いてみると「三原市にもそんなサービスはあったの、ほかの街の事と思っていました。」とか「名前は聞いたことはあるけど内容がよくわからんし、どこにどう申し込んでいいのかわからない」といった声が数多くありました。また、福祉サービスを受けるという事自体になじみがない為、どこか恥ずかしいといった意識も根強い物があるようです。

それは、今の在宅福祉サービスの窓口が保健・医療・福祉でバラバラでわかりづらく、ここへ相談すれば良いといった、介護をコーディネートする、いわば「介護の110番」的な存在がPR不足で、認知されていないからではないでしょうか。

ごぞんじですか、在宅介護支援センター

三原市は、保健福祉学園都市構想のもと保健・医療・福祉の情報ネットワークを重要課題としてかかげております。しかし、現状としてはまだまだ行政の縦割り体質を感じます。

現在、三原市は在宅福祉の身近な総合窓口として、24時間体制の在宅介護支援センター

を市内に4ヶ所設置しております。

しかし、アンケートに答えいただいた方々、ましてや情報のもっと少ない市民の方々に十分認知されているとは思いませんでした。今後、地域の在宅福祉の窓口としての在宅介護支援センターの活用やPRが、もっともっと必要ではないでしょうか。

そして、その中心的な存在として、11月にオープン予定の総合福祉健康センターに、ただ単に各部所を集めたと言う事ではなく、世代や障害を越えたすべての市民の側に立った保健・医療・福祉の総合的コーディネート機能やプロデュース機能が設置され、十分に機能する事が望まれます。市民の税金で新しく建てられるセンターです。今までの機能を単に集めるのではなく、本来の意味での保健・医療・福祉の総合的かつ中心的存在でなければその存在意義を失いかねません。

来たるべき超高齢社会に向けて

高齢者の方々の楽しみや生きがいということに関しても、ややもすれば祭り上げるばかりで、かえって高齢者の方々に社会から疎外しているような気がします。アンケート活動を通じて、高齢者の方々の社会参加へのパワーを実感しました。いまは若い人でも必ず年

を取ります。高齢化社会の問題は、我々自身の問題です。

三原市は、全国平均(2025年頃)よりかなり早い2010年頃には4人に1人が、65歳以上の超高齢社会に突入していきます。しかし、来るべき超高齢社会も一人一人が、自分たちの事として捉え、高齢者の方々の社会参加や「お互い様・助け合いましょう」の精神による世代間の理解や協力があれば、きっと乗り越えられる気がします。そしてその為にも、お互いを理解し合い、心が通じるふれあいの活動が大切なのではないのでしょうか。

総合福祉健康センターは、センター自身が駅前という立地条件を生かした市民同士の交流やふれあいのできる施設であるとともに、世代や障害・団体や個人等、色々な立場を越えて、総合的、複合的な市民の交流やふれあいの情報発達基地としての機能が必要でないのでしょうか。そして、交流やふれあいにより、市民同士の互助意識を啓発し、市民参加のまちづくりの機運が盛り上がることを期待してやみません。

我々青年会議所は、これからの三原が“すべての人が生き生きと生きがいをもって生活できる”そんな、ひとに優しいまちになるよう市民の皆様と共に考え、行動していきたいと思っております。

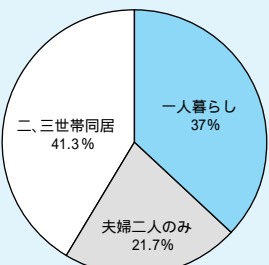
施設福祉から在宅福祉へ

高齢者の方々の「生の声」を聞かしていただくとう始めたアンケート調査ですが、三原市が今後、ひとに優しいまちとして発展していく上で必要なことを色々と勉強させていただきました。

現在、新聞・雑誌・TVなどマスメディアを通じて福祉・介護関連の情報は数多く報道されています。

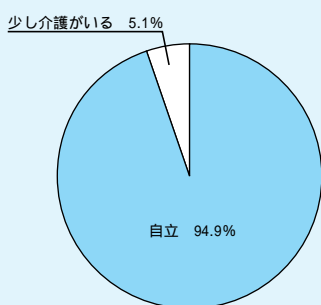
その中でもよく言われるように、高齢者福祉は施設福祉から住み慣れた家での在宅福祉へと流れています。アンケート対象者がある

問1 世帯の構成について



所見(1): 1人暮らし・老夫婦のみの世帯が合計で58.7%を占め、介護を必要とした場合、負担が大きくなることが予想されます。

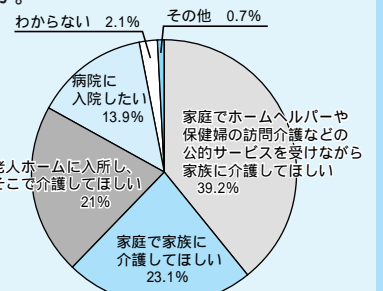
問2 健康状態について



所見(2): ほとんどの方(94.9%)が、健康と答えられました。

問3 あなた自身が日常生活で介護が必要になった場合、どのような介護を望まれますか。

所見(3): よく言われるように介護が必要になった場合、やはり家庭で家族に介護をしてほしいと希望される方が、合計で62.3%を占めていますが、家族に負担をかけたくないという思いや、施設面での安心感で、老人ホームや病院での介護を希望された方が合計34.9%いらっしゃいます。

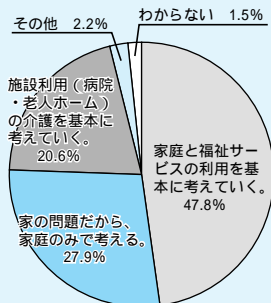


今年もどこからともなく、やっさ踊りのおはやしが聞こえて来た。毎年7月の声をきくと、気分は「やっさやっさ」でなんとなくおちつかず、そわそわしてしまう。430年の歴史を誇る「やっさ踊り」を中心に、広島県を代表するお祭りに育てていこうという思いで「やっさ祭り」が開催されてから、今年で23年目を迎える。私も何度かお手つだいをさせていただいたが、最近、特に財政の方がきびくなってきているようである。「三原やっさ祭り」の総費用は約3,750万円で、その内訳は、市より500万円、商工会議所より130万円で8割以上を市民や企業からの協賛金にたよっている。しかし最近の不景気で、企業からの

協賛金が集まりにくくなって来た。市民の皆様には、1口200円の協賛金をいただいて、そのお礼として「やっさはがき」を配布しているが、その協賛金は、400万円にもなり、全体としては非常に大きな財源となっている。三原市は、「やっさ祭り」を広島県を代表するお祭りであると言っているが、市からの予算は500万円、これを年収500万円のサラリーマンの支出に例えると、約コーヒー1杯分である。多いととるか少ないととるかは考え方であるが、県に対しても、市に対しても、いま一度働きかけていかなければならないのではないだろうか。昨年マリノロードが整備され、とてもきれいな通りになった。しかし非常に残念に思

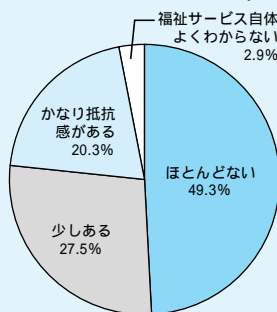
うのだが、毎年踊りのコースとなるあの区間に、やっさ踊りに使えるような照明や音響設備は設置できなかったのだろうか。マリノロードだけでなく、それ以外の道路にも、毎年少しづつでも設備していけば、財政的には、楽になって来るであろう。しかし、そういったことをしていくためには、市民の総意として「やっさ祭りを今後どうしていきたいか」を考えていく必要がある。この歴史的な財産である「やっさ祭り」を単にお祭りとして捉えるのではなく、まちづくり、地域づくりの手段として捉え、しっかりと方向性を見出してゆかなければ、21世紀には「やっさ祭り」はなくなっているかもしれない。

問4 あなた自身が介護をする立場になった場合 どういう介護を考えますか。



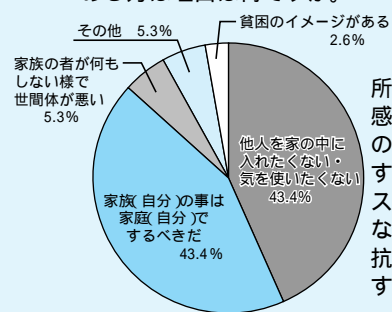
所見(4): 介護をする立場になった場合、家での介護をと考えられている方が75.7%を占めますが、その中でも公的な介護サービスの併用が必要とされた方が全体の47.8%いらっしゃいました。

問5 行政等が行う在宅福祉サービス(ホームヘルパー・ショートステイetc)を利用する事に抵抗感がありますか。



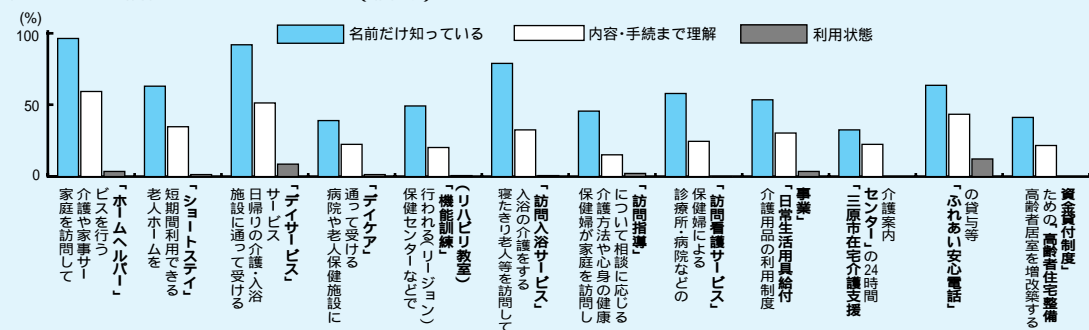
所見(5): 抵抗感のある方の合計が、47.8%、抵抗感がないと答えられた方が、49.3%とほぼ同比率ですが、アンケート対象者に1人暮らしの方が多く介護が必要になった場合、意地を張ってもしようがないといった感覚での答えが多く感じられました。

問6 在宅福祉サービスを利用する事に抵抗感のある方は理由は何かですか。



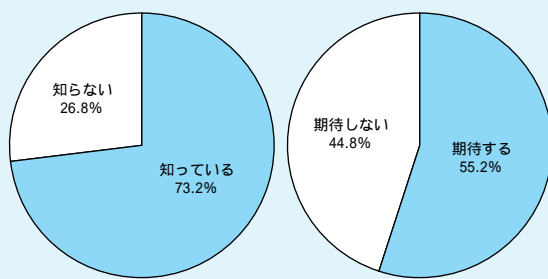
所見(6): 抵抗感としては昔からの倫理感もありますが、福祉サービス自体になじみがない為感覚的に抵抗感があるようです。

問7 在宅福祉サービスについて(個別)



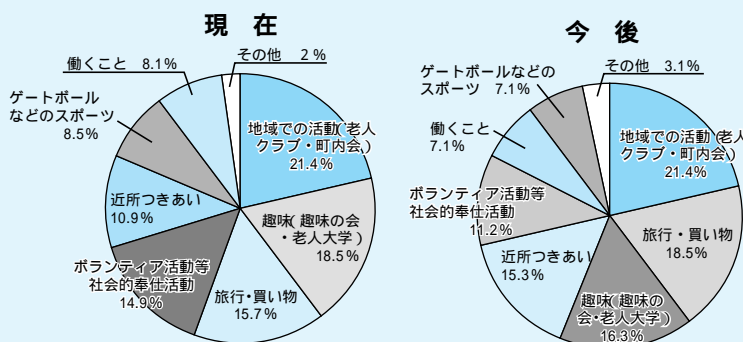
所見(7): 今回のアンケートにお答えいただいた方々は社協の指導で2ヶ月にして2回の会合に参加されておられます。この会合はボランティアの方々や民生委員の協力のもと開催されており、それに参加されている方々は福祉サービス情報についてはかなりPRを受けておられる方といえます。しかし、福祉サービスの名前や概要は知っていても、実際のサービス内容は十分理解されていない様です。特に地域の在宅介護の拠点として整備されている在宅介護支援センターは、内容を理解されていない方が77.5%を占め、利用者数は0というのサービスを利用する上で問題だと思われま。その為か、実際の利用状態は平均で2.9%程度で元気な方が多いという理由もありますが、やはりPR不足はいなめない気がします。

問8 今年度中に駅前に総合福祉健康センターが開設されますがご存じですか。また、何を期待しますか。



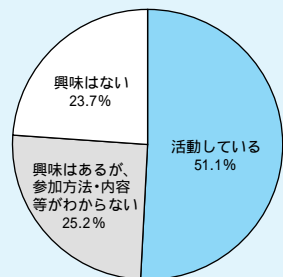
所見(8): 総合福祉健康センターに関しては、開設されるという事はほとんどの方(73.2%)が知っておられる様ですが、内容的な面で具体的な活用にイメージがわからないようです。

問9 あなたが現在やっている事で生きがいを感じたり、楽しいと感じるのはどんなことですか。また、今後やりたい事は何か。(2つ以内)



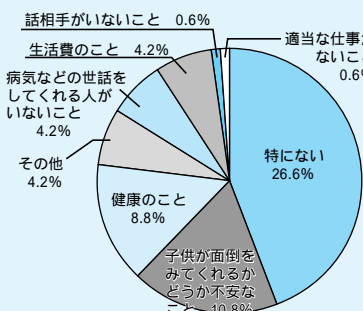
所見(9): 生きがいや楽しいと感じる内容は、ほぼアンケート項目に平均してありますが、地域活動やボランティア活動等社会に関わりをもつ事により生きがいを感じられる方が多くおられます。(合計36.3%) また、今後やりたい事としても比率が高いようです。(合計32.6%)

問10 社会的奉仕活動(地域や社会のため時間や労力・技術を提供する活動)についてどうお考えですか。



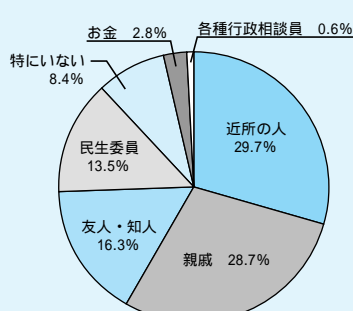
所見(10): 町内の清掃や地域でのお世話など身近なボランティア活動に多くの方が参加されているようです。興味があったり活動されている方が合計76.3%もおられ、前項目(9)にも重複しますが、社会に関わりを持ち社会に役に立っているという意識が生きる活力となっているように思われます。

問11 あなたが現在不安に思うこと また、困っていることは何か。(2つ以内)



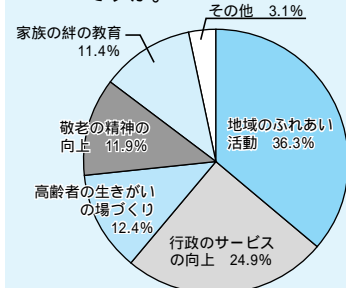
所見(11): 高齢者の為健康や介護に関する不安の合計が63.8%を占めていますが、逆に、特になしと答えられた方も26.6%おられ、地域の集まりに積極的に参加され、社会に関わりを持ちたいという方は、現在の生活にある程度満足されているようです。

問12 あなたが困ったとき 家族以外で特に頼りになるものは何か



所見(12): 特に、頼りになるものとして、近所の人と答えられた人が一番多く、29.7%いらっしゃいました。地域でのコミュニケーションを大切にされている結果だと思えます。また、それに比べて行政関係の相談員は、最下位でした。(0.6%)

問13 三原が今後、ひとに優しいまちとして発展していくために特に必要と思われることは何か



所見(13): 前項目に関連しますが、これから「ひとに優しいまち」として発展していく為には、地域のふれあい活動(ソフト面)36.3%と行政のサービス向上(ハード面)24.9%を両輪にして考え活動していく事が重要と思えます。

Advertisement for 'Yatsuza' (やつさ) featuring a large grid of member names and logos. The text includes '株本組の未来形' and '本年五月社名変更'.

本誌「やつさ」は、(株)三原青年会議所の自主財源としてここに掲載の企業のご協力を得て発行しています。